インパクト志向金融宣言

第2回代表者総会 兼
第5回ワーキングレベル会合

2023年1月26日

SIIF
Social Innovation and Investment Foundation
Capital for Social Innovation

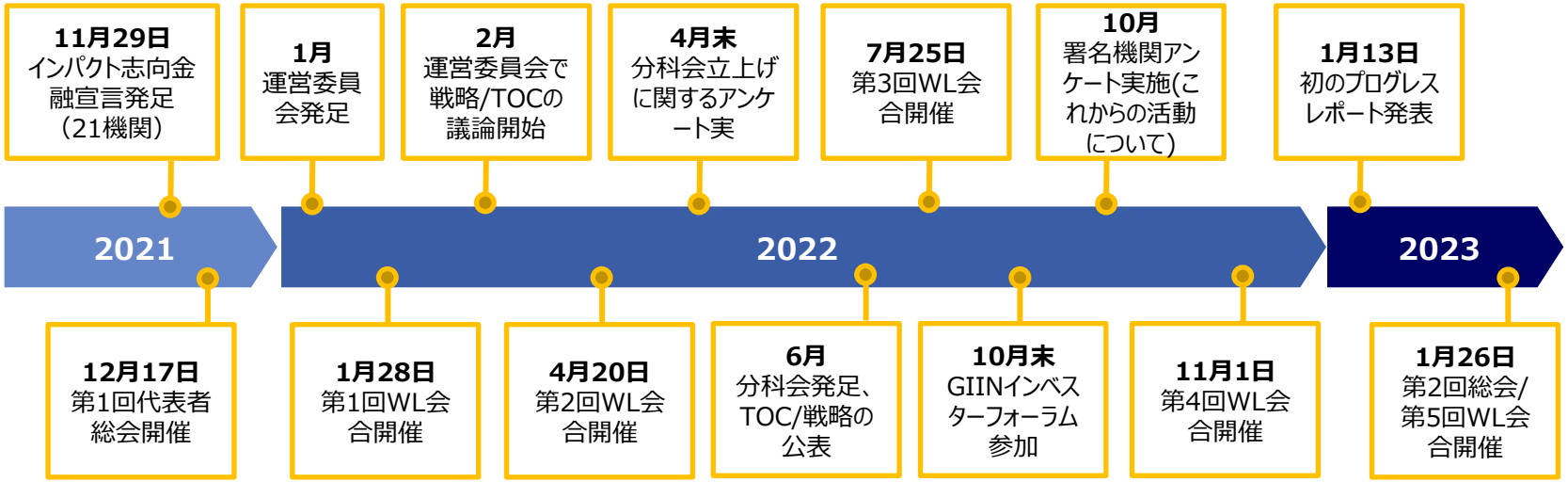
本日のアジェンダ

1.	発足一年の現在地と今後の課題	10:00～10:17
2.	ご出席者挨拶	10:17～11:00
3.	休憩	11:00～11:10
4.	各分科会より報告	11:10～11:35
5.	今後の活動についての議論	11:35～12:15
6.	議案説明・協議	12:15～12:30

1. 発足一年の現在地と今後の課題

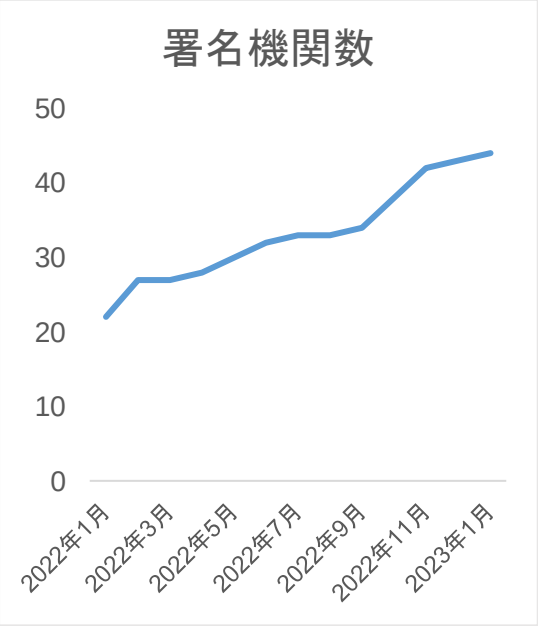
発足一年の現在地と今後の課題

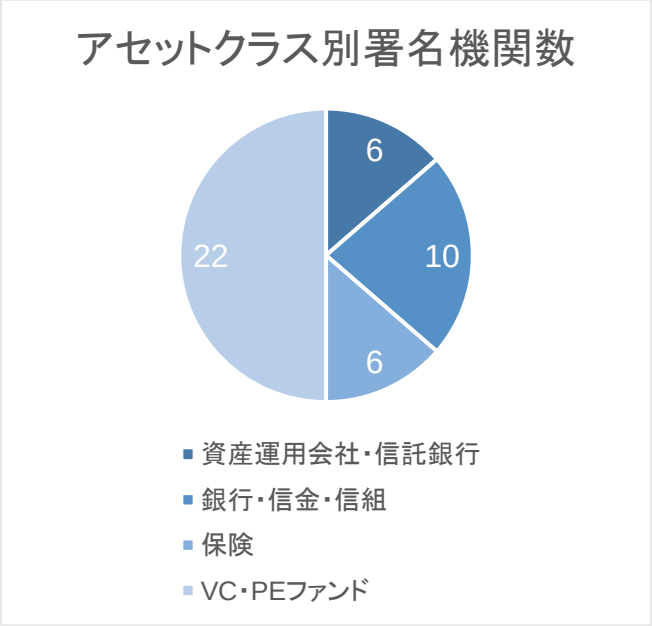
- 2021年11月29日に21の署名機関で発足
- 2022年前半に運営体制の整備や戦略の策定、分科会の立ち上げを進め、本格的な活動を開始
- 2023年1月には初のプログレスレポートを発表



発足一年の現在地と今後の課題

- 約1年で署名機関が倍増し、2023年1月時点で44機関へ
- 多様なアセットクラスを含むプラットフォームとして発展、7つの分科会が活動





分科会リスト
定義分科会
地域金融分科会
Social指標分科会
IMM分科会
海外連携分科会
VC分科会
AO/AM分科会

発足一年の現在地と今後の課題

- 2023年1月に初のプログレスレポートを発行、22年9月末時点の署名機関のインパクトファイナンス残高を公表
- 署名機関38社(6社非公開、1社非掲載)によるインパクト投資残高総額合計は3兆8500億円

日本経済新聞　小 中 大　記事利用について　印刷

インパクト投資、国内3兆円超　社会問題解決に資金

2023/1/13 10:28 | 日本経済新聞　電子版

社会課題や環境問題の解決を目指す企業に資金を投じる「インパクト投資」が拡大している。国内金融機関による投資残高は2022年9月時点で3兆8500億円になった。従来のESG（環境・社会・企業統治）投資には名ばかりで実態を伴わないとの批判が出ている。投資が実際にどのくらい課題の解決に貢献したかまで把握するインパクト投資の存在感が高まっている。

インパクト投資を推進する国内の銀行や保険会社、資産運用会社などで構成する「インパクト志向金融宣言」が13日、署名機関38社のインパクト投資残高を公表した。昨年9月時点で3兆8500億円だった。業界団体の社会変革推進財団（SIIF）によると、20年度の国内金融機関31社のインパクト投資残高は1兆3204億円。対象金融機関は異なるが、1年半でおよそ3倍に膨らんだ。

主な金融機関のインパクト投資残高	
金融機関名	インパクト投資残高
三菱ＵＦＪ銀行	1兆634億円
三井住友トラスト・ホールディングス	7176億円
みずほ銀行	6022億円
第一生命保険	4191億円
新生銀行	3914億円
かんぽ生命保険	2812億円
住友生命保険	1468億円
りそなホールディングス	978億円

(出所)インパクト志向金融宣言プログレスレポート2022

日本経済新聞2023年1月13日掲載記事

HEDGE GUIDE　ESG投資ニュース News

金融投資メディア「HEDGE GUIDE」トップ / 投資ニュース / ESG投資 / 2022年9月末時点のインパクト投資残高総額は3.85兆円に。SIIF「イン

ESG投資

2023.01.17

2022年9月末時点のインパクト投資残高総額は3.85兆円に。SIIF「インパクト志向金融宣言プログレスレポート 2022」

金融投資メディア「HEDGE GUIDE」1月17日掲載記事

JIJI Financial Solutions 時事通信社の法人・個人向け マーケット情報サービス　用途から探す　業務内容から探す　サービス　よくあるご質問　会社情報

長期投資応援団

トップページ ＞ 長期投資応援団一覧 ＞ 拡大するインパクト投融資＝４３社が署名、

マーケットニュース

フォロー　ツイート

拡大するインパクト投融資＝４３社が署名、残高３．８兆円に－金融機関が先駆的な取り組みを報告

2023年01月20日 15時00分

民間による投融資で環境・社会課題の解決に取り組むことを表明する「インパクト志向金融宣言」に署名した金融機関は昨年末、発足から約１年間で４３社に倍増した。この間、経済的リターンと社会課題解決の両立を目指すインパクト投融資の残高は、３兆８５００億円に拡大した。事務局を務める一般財団法人社会変革推進財団（ＳＩＩＦ）が、１年間の活動を「プログレスレポート２０２２」にまとめた。

このほど開催された報告会では、豊かな未来を目指して、金融機関が起点となり、投資家や預金者、企業を巻き込んで新しい資金の流れを創造する、さまざまな先駆的な取り組みが紹介された。報告会の主なポイントをまとめた。

◆インパクト投融資へ、強まるベクトル

「インパクト投融資は、環境・社会・ガバナンスを重視するＥＳＧファイナンスの次に来る『Ｂｅｙｏｎｄ ＥＳＧ』であり、そのベクトルは日増しに強まっている」―。インパクト志向金融宣言 運営委員会の委員長を務める三井住友トラスト・ホールディングス フェロー役員の金井司氏は、インパクト投融資の現状について、こう分析した。

JIJI Financial Solutions 1月20日掲載記事

発足一年の現在地と今後の課題

■ 運営委員と分科会座長・副座長メンバー（敬称略）

運営委員（計8名）

- 金井 司（三井住友トラスト・ホールディングス）
- 松原 稔（りそなアセットマネジメント）
- 岡崎 健次郎（第一生命保険）
- 加藤 正裕（三菱UFJ信託銀行）
- 岩本 進也（静岡銀行）
- 石井 規雄（京都信用金庫）
- 藤井 昭剛ヴィルヘルム（リアルテックホールディングス）
- 平田 みずほ（SBI新生銀行グループ）

分科会座長、副座長

分科会	座長、副座長
定義分科会	事務局(SIIF)
地域金融分科会	金井 司(SMTH)、山崎　剛（静岡銀行）
Social指標分科会	松原稔(りそな)/石井 規雄(京都信用金庫)、近藤 靖(りそな)
IMM分科会	今田 克司(SIMI)/ 千田 領一郎(SIMI)/菅野文美(SIIF)
海外連携分科会	藤井 昭剛ヴィルヘルム(リアルテック)/中村 将人(GLIN)、秦 雅弘/才木 貞治(GLIN)
VC分科会	堤 世良(DGｲﾝｷｭﾍﾞｰｼｮﾝ)/秦 雅弘(GLIN)、中村 将人/才木 貞治(GLIN)
AO/AM分科会	小野塚 惠美(科学と金融による未来創造イニシアティブ)/安間 匡明(SIIF)

発足一年の現在地と今後の課題

- 本宣言は、インパクトファイナンスへの「経営のコミット」と「実践」を軸としたプラットフォームとの位置づけ
- 国内では「インパクト」推進に関する動きが加速するなか、金融庁「インパクト投資等に関する検討会」には、本宣言の署名機関も複数参加

[インパクト志向金融宣言 の位置づけ]

国内の動向（2022年）	
2月	金融庁「ソーシャルボンドのインパクト指標（社会的な効果に係る指標）等に関する委託調査」最終報告書発表
6月	政府の「骨太方針2022」にインパクト投資や新しい法人形態の検討が盛り込まれ、内閣官房「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」にてインパクトを考慮したマルチステークホルダー型企業社会やインパクト投資の推進を言及
	経団連「“インパクト指標”を活用し、パーパス起点の対話を促進する」を公表
7月	金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議第二次報告書」にて、「インパクト」を横断的課題のひとつとして議論
10月	金融庁が新たに「インパクト投資等に関する検討会」を設置

発足一年の現在地と今後の課題

- 10月に署名機関向けに実施したアンケートでは、今後このプラットフォームで実現したいことについて多くの意見が挙がり、署名機関の意気込み、期待は大
- 今後、TOCで設定したVision, Missionを実現していくためにどのような計画・目標を立てて活動を行っていくかについて、プラットフォームの運営方法や「誰が何をやるのか、できるのか」といった具体的な内容も含めて議論していく必要がある。　**→本日、後半で議論**

TOC

Vision つくりたい未来	金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生みだしていく
Mission 私たちの使命	金融機関横断で、インパクト志向の追求とIMMの実践に向けた取り組みを協同して推進していく
Strategy 戦略	リターンとインパクトの同時実現を伴うインパクトファイナンスの個別事例を積み上げていくことを通じ、金融機関の業務全般におけるインパクト志向金融経営の実現、その拡大を目指す
	1 知る・つながる: 業界の知の向上・海外との連携
	2 広める・知らせる: 量的な拡大
	3 高める・深める: 質的な向上
	4 つなげる: インベストメントチェーン全体の巻き込み
主な 活動内容	• 国内外のベストプラクティスや最新状況を知る • 海外の先進的なプレイヤーとつながる
	• インパクト志向金融並びにインパクトファイナンスに関する周知活動 • 署名機関の拡大
	(アセットクラス別に) • 質の高いIMMの実践 • ベストプラクティス創出 • インパクトパスウェイの可視化
	• アセットオーナーとの連携推進、エンゲージメント • 個人投資家を動かす仕掛けづくり • ディールフロー拡大(投資先エンゲージメント)

今後の課題

具体的な中期計画(3～5年の計画)は？

目標設定や役割分担をどうするか？

プラットフォームの持続的な運営体制をどう整備するか？

2. ご出席者挨拶

3. 休憩（10分間）

4. 分科会報告

分科会報告（各分科会3分）

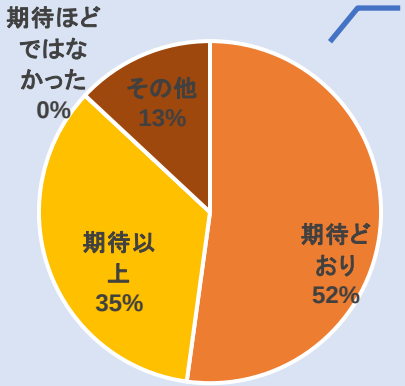
分科会	座長、副座長
定義分科会	事務局(SIIF)
地域金融分科会	金井 司(SMTH)、山崎　剛（静岡銀行）
Social指標分科会	松原稔(りそな)/石井 規雄(京都信用金庫)、近藤 靖(りそな)
IMM分科会	今田 克司(SIMI)/ 千田 領一郎(SIMI)/菅野文美(SIIF)
海外連携分科会	藤井 昭剛ヴィルヘルム(リアルテック)/中村 将人(GLIN)、秦 雅弘/才木 貞治(GLIN)
VC分科会	堤 世良(DGｲﾝｷｭﾍﾞｰｼｮﾝ)/秦 雅弘(GLIN)、中村 将人/才木 貞治(GLIN)
AO/AM分科会	小野塚 惠美(科学と金融による未来創造イニシアティブ)/安間 匡明(SIIF)

5. 今後の活動についての議論

これまでの議論：第4回ワーキングレベル会合前アンケート（10月）

事前アンケート結果

Q1：インパクト志向金融宣言に参加した感想



(回答数:28)
87%が期待どおり/期待以上とご回答

- ✓ インパクト投資の理解が進んだ、インパクト投資の考え方を「志向」するための社内の知識や意識醸成に役立った
- ✓ インパクトという動きが加速化した
- ✓ 分科会での先行事例紹介や、様々な方とアクセスできること
- ✓ 悩みなどを含めて情報交換ができるから
- ✓ 前向きな参加者による真摯な議論が行われており、市場の発展に貢献し得ること
- ✓ 内容が実際の投資に基づいたものであり、かつ先進的で、非常に勉強になる
- ✓ ネットワークの構築・情報共有
- ✓ 分科会での交流を通じて京都信用金庫が取り組むソーシャル認証制度への参加が決まった

Q2：一番よかった活動

分科会等	✓ 分科会活動、勉強会（7名）
他機関とのつながり、業界ネットワーク構築	✓ 他機関との意見交換、他社事例を知る事ができた ✓ 業界ネットワーク構築(投資家含む金融機関へのアクセス)、関係者とのネットワーク拡充 ✓ 中小企業金融でのインパクト創出に興味のある金融機関が多いことを知れた ✓ インパクトファイナンスに取り組まれる人達と繋がることができたこと ✓ 民間主導でさまざまな取り組みが動き出したこと ✓ 金融機関やVC等側の事業における社会性の理解や認知が広がったこと
自社取組への反映	✓ 分科会での交流や勉強会参加を通じて自社の取り組みを具体的に考えることができたこと ✓ 社内でのESG活動の認知度が上がってきた ✓ 定期的に会合機会があることで、社内でもインパクトにかかる検討を共有する契機にもなること ✓ 「インパクト指標を通じた対話」を進める議論を展開するきっかけとなった

これまでの議論：第4回ワーキングレベル会合前アンケート（10月）

事前アンケート結果

Q3：インパクト志向金融宣言でやってほしいこと、やりたいこと

- ✓ それぞれの金融機関が社会に求められる役割を果たしていく中で、金融機関同士の連携によって、果たす役割をより大きい、高度なものにしたい
- ✓ 参加者の自由な意見交換を通じた、問題意識の共有や、イニシアティブの組成
- ✓ ネットワーキングイベントの開催、海外の同様のコンソーシアム(SPAIN NAB)のような機関との連携・交流
- ✓ インパクト投資の目線合わせと投資環境の整備
- ✓ 様々な立場の方々の悩みや考え方が共有される場の設置
- ✓ オフラインイベント
- ✓ 他分科会との交流、投資家同士の交流
- ✓ 海外の取組みと、日本の取組みのブリッジ

- ✓ インパクト志向を地域の中小企業等にも浸透させること
- ✓ PEやVC投資のESG/インパクト投資をより進展させていきたい
- ✓ まだインパクト投資を行えていない企業等へのファンドレイズのアドバイス・支援
- ✓ インパクト投資とは何か、どう取り組むことができるか(導入のヒント)を幅広く伝えること
- ✓ ここでの議論や提言が政策にも反映されるような影響力の向上

- ✓ 先行事例を交えた、具体的な事例やフレームワークの紹介
- ✓ 事例の紹介と、議題を挙げた意見交換
- ✓ 「インパクト」の具体的な事例　上場株など広がりがある分野でのベストプラクティスの紹介
- ✓ ESGのSやGの定量的に計測が難しい分野の計測方法とそれをKPIとしているインパクト投資についての勉強会
- ✓ 人材育成

- ✓ 自走化

インパクト志向金融宣言の「戦略」

1. **知る・つながる：** 業界の知の向上・海外との連携
2. **広める・知らせる：** 量的な拡大
3. **高める・深める：** 質的な向上
4. **つなげる：** インベストメントチェーン全体の巻き込み

これまでの議論：第4回ワーキングレベル会合前アンケート（10月）

事前アンケート結果

Q4：今後どのようなプラットフォームにしていきたいか

✓成功事例も失敗事例も共有できる、知のプラットフォーム化の更なる推進
✓各機関が互いに学び合うことにより、進化し続けるプラットフォームとしたい
✓Interactiveなコミュニティー
✓これからも民間主導で進めていきたい
✓より多くの投資家へ認知され、多くの金融機関が参加するプラットフォームになることを期待します
✓インパクト投資を行っているところとこれから行おうとしているところの個別の連携の機会が生まれるようなプラットフォーム
✓インパクト志向の企業や市民が増えていくような施策や取組みが増えていく場になるとよいと思います
✓署名機関、事務局との双方向だけでない、予想外の接触、発見を生むプラットフォーム
✓日本におけるインパクト投資を核としたサステナ投資の推進を実務面も含めてサポートするプラットフォーム
✓実務側だけでなく、大学等の研究機関も巻き込んだプラットフォームにしてほしいです
✓インパクトファイナンスで何か照会したい時には、ここに照会すれば解決できる、または一定の解決策を引き出すことができる場所にしていきたい
✓経産省中心に「トランジションファイナンス」の本格議論が始まり 大手上場企業でのトランジションの成果や温室効果ガス削減効果を「インパクト指標」として示す動きが加速することが見込まれる。このような動きを捉え、どのようなインパクトの見せ方が適切かなどを議論する場とすることも一つのアイデアであろう。
✓上場資産などインパクト投資の拡大
✓金融業態ごとのインパクトファイナンスの最先端にアクセスできる場所
✓日本におけるインパクト投資推進のためのプラットフォーム
✓（特にVC業界において）インパクトの取り組みを当たり前のように取り組めるようにしていきたい
✓夫々の立場の方々が有機的にコミュニケーションを取る事で、インパクト投資が推進するようなプラットフォームにしていきたい
✓金融機関だけではなく、政府・自治体・国際機関・アカデミア、そして資金調達側にも署名対象を拡大し、多くの視点からより幅広く、深い議論を行うことで、より大きな活動成果を生み出し、日本だけでなく、グローバルにインパクト投融資の更なる浸透、そしてその発展を促すことができるプラットフォーム
✓国内をベースにしつつも、将来的にはアジアないしはグローバルにも署名者を増やしていき、日本発のインパクト経営プラットフォームにしていきたい

これまでの議論：第4回ワーキングレベル会合ディスカッション(11月)

議論①日本の金融業界として、インパクト投資に取り組むにあたって課題を感じていること

意識(個人・金融機関・事業者)

専門部門は「社会的リターンが企業価値の向上に繋がり経済的リターンに繋がる」という認識だが現場は違う。

「社会の為」「利益の為」等、目線が違うと話が合わない。

専門部署と現場とのギャップがあること

「誰の為のインパクトか?」の目線が異なること

感度の低さ、インパクトが本流という意識の欠如

事業者サイドの意識向上が必要であること

自らのビジネス領域や地域にあったインパクトファイナンスを推進していくことが重要。

実践者の課題

市場全体の課題

多様性を確保しながら市場を拡大する必要があること

インベストメントチェーン上流の巻込み

社会課題の共有化,プラットフォーム化が求められること

取り組みの共有化や目線合わせが必要であること

分かりやすい情報発信・可視化が必要であること(用語、定義)

専門人材の不足(金融、企業側双方)

投資先を巻き込んだIMMの仕組みづくりが必要であること

インパクトと経済リターンの関係を整理する必要があること

IMM手法や社会的リターン測定が発展途上であること

実際にリターンが生める案件が少ないこと

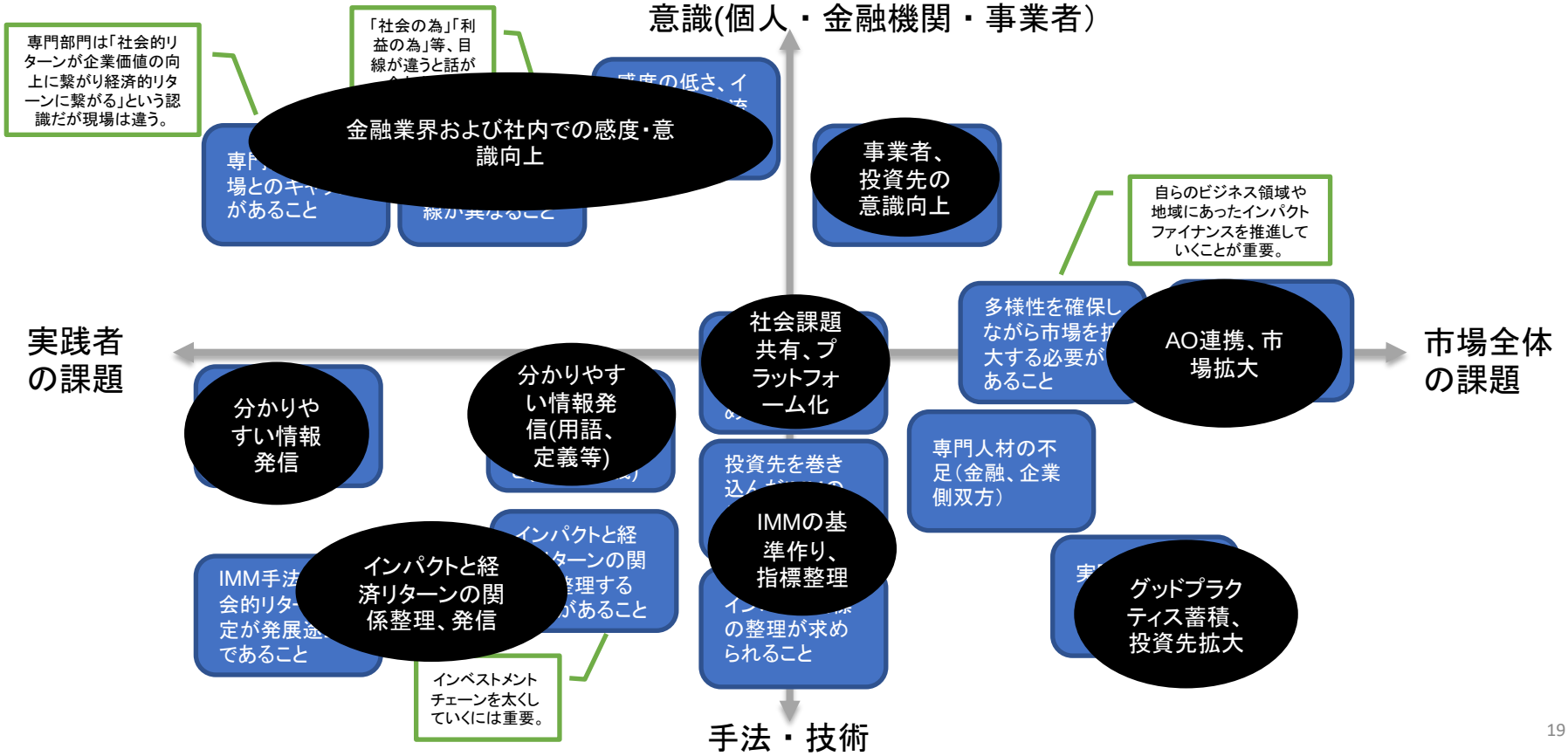
インパクト指標の整理が求められること

インベストメントチェーンを太くしていくには重要。

手法・技術

これまでの議論：第4回ワーキングレベル会合ディスカッション(11月)

議論①日本の金融業界として、インパクト投資に取り組むにあたって課題を感じていること



これまでの議論：第4回ワーキングレベル会合ディスカッション(11月)

議論②インパクト志向金融宣言で、中期的（3～5年後）に達成したいこと

市場拡大、エコシステム構築

- ✓ **認知度の向上：**社内的にも社外的にも認知度が高まり、注目度が集まってくると良い。
- ✓ **エコシステムの構築：**実践者を増やし、エコシステムを発展させる。先導を切っているプレイヤーのケーススタディを共有し、オープンに話せる場をつくっていく。3年後には成功事例だけでなく失敗事例も出てくると思われるため、そうした失敗事例も含めて共有できる場にする。
- ✓ **多様な資金の出し手との横連携：**例えば「この地域にどういうインパクト出すのか」といった議論を行ったり知見を共有したりすることにより、金融機関がスクラムを組み横連携できると良い。インパクトのエコシステムという観点で、エコシステム全体で足りていない部分を可視化し、投資・融資が連携するなど、それぞれ相互補完的な役割を担っていけると良い。

金融プラットフォームとしての発展・継続

- ✓ **金融機関が集まることによる社会課題の解決：**金融の持つ可能性、つまり社会全体を見渡す力や俯瞰性があることを踏まえ、より良い社会に向けて動き出すエネルギーを発揮していくこと。金融が複数社集まることにより、社会課題の解決を一歩一歩達成していくこと。
- ✓ **新しい金融商品のスキームづくり：**地域創生や特定の社会課題など、関心が高い課題・テーマに対して「このような取り組みが出来るのではないか、こういうスキームならお金が出せるのではないか」と、具体的なモデルケースをディスカッションして、新しい金融商品のスキームをつくっていく。
- ✓ **継続していくこと**：このプラットフォームを継続・発展させていき、日本のインパクトファイナンスの総本山にする。

知見やナレッジの深化・発信

- ✓ **独自のノウハウの発展：**日本独自のインパクトも当然出てくるので、地域性を活かしたIRIS+日本版のようなものが開発できると良い。
- ✓ **共有ナレッジの開発：**インパクト投資拡大のために、インパクトの定義やスキーム、共通指標等を整理し、標準化・カタログ化できると良い。また、ベストプラクティスやモデルケースをこのプラットフォームでしっかり作り、広めていく。
- ✓ **インパクトとリターンを出し信頼度を高めていくこと：**インパクトと経済リターンが独立したものではないということを、中長期的に明らかにしていく。
- ✓ **IMMの持っている可能性追求：**IMMを投資だけではなく、合意形成の手段等に活用していく等、単に投融資を超えた、金融機関の新たな可能性の追求という観点。
- ✓ **海外発信：**日本には様々な社会課題があるため、このプラットフォームで発見をされた様々なグッドプラクティスや実践のケースを海外に発信していけると良い。

これまでの議論： 11月運営委員会での中期計画策定議論

本宣言の特徴、位置づけの考慮

- ✓**宣言の特徴である「投資家・経営コミット・実務者」**を、これからどうやって進め・拡張していくかが重要
- ✓本宣言じゃないとできないことは何か？私たちがやらないといけないことは何か？という**独自性**を考える
- ✓いろいろなイニシアチブが乱立する中で本枠組みに入ることで自分たちでどういう成果を出せるのかという視点、**他のイニシアティブとの差別化**
- ✓インパクト投資は金融庁の検討会が始まっており、国が入ってくることの意味は考えなければ。そのような中で、**本宣言がどのような役割を果たしていくべきなのか**を検討する必要あり

具体的な数値目標、マテリアリティ、活動計画の設定

- ✓「インパクト投資金額を5年後に10倍にする」など、**明確な目標設定**をしていくべきなのでは。
- ✓3～5年後に何をするべきか考えることは非常に重要、**マテリアリティ**（目的関連性、インパクト志向金融宣言の目的に照らして何が本当に重要か？）、**誰が何を実現するのか**（分科会が実現していくのか、事務局が実現していくのか？）の整理も必要
- ✓プログレスレポート以外に**何を具体的に残すのか**？

目指したい方向：
-知見の蓄積
-業界の意識変革
-海外連携
-投資先連携

- ✓**インパクトファイナンスの総本山**。インパクトファイナンスを進めていく上で、ここに集まれば何らかの意見がもらえる・知見が得られるということは重要
- ✓実務者が集まっている特徴を活かし、実務者レベルで見えている課題にどう対応していくか、**プラットフォームの中で答えを作り蓄積**することを優先したい
- ✓事例を積み上げるための個別案件の紹介をしていく仕組み。赤道原則のように、具体的な悩みを議論して、それを**データベース化**していくのが良いのでは
- ✓**分科会の成果をデータベース化**していって、誰でも情報にアクセスできる仕組みが必要
- ✓マトリクスの左上「**金融業界および社内での感度・意識向上**」がまず重要であり、その後、ほかの事象にも取り組むというのが良いのではないか
- ✓インパクト志向金融宣言は金融システムそのものを変える仕組み。社会と金融をつなげていく中で、インパクトがどう関係し、**新しい金融システム像をどう見せていくかという戦略作り**が必要。
- ✓**業界を牽引している海外と連携**し、課題ごとに海外の事例を取り入れる仕組みづくり、海外の潮流との整合性、地域とグローバルの整合性も重要
- ✓日本独自のインパクトファイナンスの潮流があり、**海外への発信**をいかにやっていくか
- ✓**投資を受ける側とのコミュニケーション設計**が出来ると良い。一方的な視点でのIMMにならないような工夫が必要

組織の在り方の検討

- ✓ **自走化**の議論も必要

中期経営計画策定の進め方（運営委員会で協議）

1. 今まで出た主な意見を事務局にて整理
2. 各分科会からは中期計画で成し遂げたい内容（例：具体的目標等）提出をお願いする
   締め切り2月頭
3. 上記の二つをまとめて課題を内容とレベルに応じて整理
4. リアルで3時間程度のブレインストーミングを行う（参加者は制限しない）
   2月14日（火）18:00~21:00

1. 運営委員会にて議論 **2月20日、3月20日**
2. WL会合に付議 **４月（未調整）＊１月末の次のWL会合は４月**

今後の活動についての議論

「問い]

- ✓ 実現したい姿は？（定性的な意見、例：駆け込み寺的プラットフォーム）
- ✓ 具体的な目標をどうするか（数値目標、インパクトファイナンス残高をXX兆円とする、参加機関をXX機関とする、年金基金の参加数、等）
- ✓ 中期計画のタイムラインへの意見（3年？5年？）
- ✓ 優先度付け（全部は対応できないとしば場合、何を優先するか？）
- ✓ 実現性を高めるためにどのような体制づくりが必要か？
- ✓ 自走化の議論の在り方、スケジュール、方法論

参考：インパクト志向金融宣言の戦略・Theory of Change（TOC）

・個別投資におけるIMMの実践を積み上げていくことにより金融機関の経営をインパクト志向へと変革させていくことを基本戦略に掲げる一方，インパクト志向金融の経営を推進することを通じ，金融機関の業務全体にIMMを伴うインパクト志向の金融を拡大させていくという，トップダウンとボトムアップの双方からのアプローチをとる。
・この戦略を複数の金融機関に横断的に推進していくことで、金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させていくことを目指す。

Vision
つくりたい未来

金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生みだしていく

Mission
私たちの使命

金融機関横断で、インパクト志向の追求とIMMの実践に向けた取り組みを協同して推進していく

Strategy
戦略

リターンとインパクトの同時実現を伴うインパクトファイナンスの個別事例を積み上げていくことを通じ、金融機関の業務全般におけるインパクト志向金融経営の実現、その拡大を目指す

1 **知る・つながる**：
業界の知の向上・
海外との連携

2 **広める・知らせる**：
量的な拡大

3 **高める・深める**：
質的な向上

4 **つなげる**：
インベストメントチェーン全体の巻き込み

主な
活動内容

- 国内外のベストプラクティスや最新状況を知る
- 海外の先進的なプレイヤーとつながる

- インパクト志向金融並びにインパクトファイナンスに関する周知活動
- 署名機関の拡大

（アセットクラス別に）
- 質の高いIMMの実践
- ベストプラクティス創出
- インパクトパスウェイの可視化

- アセットオーナーとの連携推進、エンゲージメント
- 個人投資家を動かす仕掛けづくり
- ディールフロー拡大（投資先エンゲージメント）

※インパクト志向金融経営とは、金融機関がその経営においてインパクト志向を取り入れていくことを指す
　インパクトファイナンスとは、インパクト志向の金融手法全般を指し、投資、融資、その他の金融商品を含む

議案説明・協議

議案

1. 運営委員の新規任命について
2. 中期計画について
3. 必要最低限の規程の整備について
4. インパクトファイナンスに関連したセミナー等の共催・後援について